

平成26年度業務計画書

I. 業務の内容

1. 業務の題目

科学技術をめぐる参加型の議論の場を不断に創出するシステムの開発

2. 担当フェロー

三上 直之
八木 絵香

3. 業務の目的

第4期科学技術基本計画に明確に示された通り、社会の幅広い理解や信頼のもとで科学技術を発展させていくためには、国民の政策過程への参画や、テクノロジーアセスメント、リスクコミュニケーションへの取り組みの強化が不可欠である。多様な意見や知識を持つ市民、専門家が参画し、透明性の高いプロセスのもと科学技術をめぐる諸課題が議論され、そこで生まれる新たな認識や理解が科学技術の展開に生かされる社会を実現すること。これが、我が国のこの分野における目下最重要の課題のひとつである。本課題研究は、この課題の解決に寄与すべく、科学技術をめぐる参加と議論の場が日本社会に不断に創出される仕組みを開発することを目的とする。

具体的には、①科学館、大学等の教育研究機関を拠点として、科学技術をめぐる参加型の議論の場を創出する仕組みの開発（会議設計の手法や、企画運営のノウハウ、議論の場の設定を促すファンディングシステムの開発など）と、②多国間での市民会議の同時開催など、国際的な展開の可能性を視野に入れた事例収集や手法開発の2点に焦点を絞って研究開発を進める。

4. 当該年度における成果の目標及び業務の方法

今年度は、本調査研究業務（3年間）の最終年度にあたることから、昨年度までの調査研究の内容を基盤として、各調査研究項目において応用的・発展的な内容に取り組む。また、3年間の調査研究の総括として、我が国において科学技術に関する参加型の議論の場を不断に創出するしくみを生み出すのに必要な事項について、知見をとりまとめる。

①対話の場のネットワーク展開モデルの拡充と応用

平成25年度に引き続き、社会教育施設や学校等の現場と協働して対話イベントを実施し、科学技術をめぐる対話の場を社会の中にネットワーク的に展開するための手法を開発する。

具体的には、前年度にモデルケースとして位置づけた静岡科学館との連携を実装すると同時に、その効果等についても検証を行う。それと同時に、別の科学館やサイエンスコミュニケーターのネットワークと連携した、新しいモデルケースも構築する。

また、この対話プログラムの展開に関与したサイエンスコミュニケーターへインタビューを行い、プログラムの意義や実装のための課題について抽出する。

加えて、生物多様性・再生医療以外の重要テーマでも同様の対話プログラムを実施できるよう、引き続き新規パッケージの開発に向けて、テーマの探索や予備的リサーチなどの検討を行う。

②世界市民会議のデータを用いた発展的・総合的分析

平成24年度の「生物多様性に関する世界市民会議」において収集、構築されたデータセットを用いた社会的・心理学的分析を継続する。とくに今年度は、昨年度から行っている発展的・総合的分析として、議論の場に参加する人々の動機づけの分析や、参加障壁の緩和のための方策の検討に重点を置いて進める。

また、国際共同研究の一環として平成25年度に執筆・提出した論文（単行本の1章分として、平成26年度中に出版予定）について、編者や外部査読者の再審査を踏まえて、ユニット内で再び討論を行い、必要な改稿を行うなどして、出版に向けて内容の充実を図る。

③知見のとりまとめ

3年間の調査研究の成果を踏まえて、わが国において科学技術に関する参加型の議論の場を不断に生み出すしくみとして何が必要であり、当面注力すべき施策は何であるかについて、知見をとりまとめる。このとりまとめのために、関連する分野の研究者や教育関係者、行政関係者など多様なステークホルダーを交えて議論する機会を設ける。具体的な方法としては、本研究課題で得られた知見の総括的な報告と討論を目的としたシンポジウムやワークショップ、または学会等における企画セッションの開催などを適宜選択し、企画する。

また、このとりまとめや議論を国際的動向ともかみ合う形で行うため、平成26年5月にブラジルで開催される科学コミュニケーションに関する国際会議（PCST2014）に出席し、本ユニットでの調査研究成果を報告するとともに、諸外国での研究開発や政策の動向について情報収集する。